

## 第60回東医体信州大学医学部運営本部より

第 63 回(2020 年度)東医体について



第 60 回東日本医科学生総合体育大会

信州大学医学部運営本部

〒390-8621

長野県松本市旭 3-1-1

TEL:0263-37-3575

FAX:0263-37-3575

## 1. 2020 年度大会について

皆様もご存じの通り、2020年には東京にてオリンピック競技大会およびパラリンピック競技大会が開催される予定です。各競技大会の開催日程は以下のようになっております。

### (1) オリンピック競技大会開催概要

正式名称: 第 32 回オリンピック競技大会

開催期間: 2020 年 7 月 24 日 (金)～8 月 9 日 (日)

競技数: 33 競技

### (2) パラリンピック競技大会開催概要

正式名称: 東京 2020 パラリンピック競技大会

開催期間: 2020 年 8 月 25 日 (火)～9 月 6 日 (日)

競技数: 22 競技

また、東医体の開催期間は以下のようになっております。

### 東日本医科学生総合体育大会開催概要

開催期間: 8月1日～8月15日

競技数: 21 競技

上記の通り、東京オリンピックは第 63 回東医体の開催期間と重複しています。このため、2020 年度の東医体開催においては多くの問題が発生することが予想されます。現在、第 60 回東医体運営委員会では、第 59 回および第 61 回の運営委員会とともに運営委員会内会議として「オリンピック・パラリンピック対策協議会」を設置し、この問題に対して議論を重ねています。

## 2. 第 63 回東医体への影響

オリンピックの開催に伴い、第 63 回東医体では以下のような問題が生じると予想されています。

### (1) 会場の確保が困難

第 63 回東医体の主管グループは G グループ (筑波大学医学群、昭和大学医学部、東京医科歯科大学医学部、聖マリアンナ医科大学) であり、東京医科歯科大学医学部および昭和大学医学部は東京都、聖マリアンナ医科大学は神奈川県、筑波大学医学群は茨城県と、全ての大学のキャンパスが関東地方にあります。

このため、東京オリンピック・パラリンピックに際して、東医体で使用する可能性のある競技会場が、オリンピックの会場および事前キャンプの会場として使用されてしまうことにより、競技会場の確保が困難になると予想されます。特に、オリンピックの事前キャンプの競技会場と東医体に用いる競技会場は規模が合致する可能性があり、競技会場確保に大きな影響を与えることが予想されます。さらに、事前キャンプは関東地方以外でも十分行われ得るため、関東地方以外の競技会場も確保しにくくなると予想されます。

## (2) 宿泊施設の確保が困難

東京オリンピック・パラリンピックの開催期間中は、大会役員や観客が東京近郊に集中し、東京近郊での宿泊施設の確保困難及び交通網の混乱が予想されます。

また、オリンピック観戦前後に東北や北海道など、関東以外へ観光に行く観光客も予想されるため、関東以外でも宿泊施設の確保が難しくなる可能性があります。

## (3) 財政の逼迫

会場・宿泊施設の確保が困難であることは前述の通りですが、もし確保出来たとしても、会場・宿泊施設の価格はオリンピックの影響により上昇している可能性があります。

## 3. 今後解決すべき課題について

### 3-1 開催日程の変更について

運営委員会では、開催日程を運営委員会で指定することなく選択肢を増やし、競技実行委員の裁量に任せて競技日程を決定することが最善ではないかと考えています。

東医体申し送り事項には、

#### 「1. 東医体開催期間

東医体の開催は原則として8月上半期とする。」

という記載があります。この記載について、2020年に限ってはこの限りでなく、競技および競技者の希望にそって東医体が開催できるよう、第60回第2回定例会議を目途に改訂を行う予定です。

### 3-2 開催地域の変更について

運営委員会では、開催地域についても開催日程と同様に運営委員会で指定せず、可能な限り競技実行委員の裁量に任せることが最善ではないかと考えています。

開催地域については、今後も引き続き競技および競技者の意見を集め、また、競技者の負担をできる限り軽減できるよう競技ごとの方針を引き続き議論していただくとともに、より円滑な第63回大会開催に向けて運営委員会でも検討を重ねていく予定です。

### 3-3 財政上の困難について

第63回東医体を開催するにあたっては、通常の実施方法と大きく異なる点が多いため、例年に比べ開催費用が大きく増加する可能性があります。また、西日本など遠方での開催となった場合、例年よりも競技者の遠征費用が増加し、参加校数が減少する恐れもあります。

1人でも多くの競技者が東医体に参加できるような大会作りに向けて、運営委員会では財政上の検討も行っていく予定です。

## 4. なぜ今から話し合いを行う必要があるのか

「2020年なんてまだまだ先の話をなぜ今から考える必要があるのか」とお考えの方もいらっしゃる

やるかもしれません。東京オリンピックのある2020年は、上記にあげましたように様々な影響が出る事が予想されており、通常の運営では東医体開催が困難になる可能性も十分に考えられます。また、2020年については予測不可能なことが多く、直前になって何が起こっても柔軟に対応できるよう、前々から体制・制度を整えていく必要があります。東医体では、規約に関わる変更などをすぐに行うことはできず、評議委員会、理事会としっかりとした手順を踏み、承認をいただいてからでないと変更を行うことができません。また、これらの変更は運営委員会だけの独断で行うのではなく、競技者の皆様の意見をしっかりと取り入れたものでなくてはならないと考えています。

このため、2020年と先のことにはなりますが、今から話し合いを始めるとともに、競技者の方にアンケート等でご意見をいただいたりしております。

また、2020年(第63回)東医体は通常の運営とは異なることが多くなり、運営がより難しくなることが予想されるため、運営委員会は例年よりも半年程早い2018年1月に組閣を行い、また、競技三役(競技実行委員長、財務係、安全対策係)は例年よりも1年程早い2018年4月に決定し、東医体の運営についてより見識を深めた上で第63回東医体の運営にあたってもらう予定です。

このような長い資料を最後まで読んでいただき本当にありがとうございます。

第63回東医体に参加する競技者のうち、半分ほどはまだ入学もしていない状態であり、現時点で東医体に参加される皆さんの意見が、第63回東医体に参加する後輩の運命を決めることとなります。そのことを念頭においた上で、このオリンピック問題について真剣に考えていただけると幸いです。

オリンピック問題に関しましてご不明な点、ご意見などございましたら下記連絡先までご連絡ください。

第60回東医体信州大学医学部運営本部

副運営本部長 伊東優衣

TEL: 080-2339-5673

MAIL: itoyui.0202@gmail.com

PCMAIL: 60th.shinshu.hukuhonbucho@gmail.com